

天保六 未とし

座本 嵐橋之助

五月一座改メ

座本 嵐三津橋

十二月廿七日ヨリ

姫競雙葉繪草紙

二月廿七日ヨリ

玉藻前 曦 袂

大經師 昔 曆

尾上多見藏

實川延三郎

小川鬼雀

市川新四郎

市川市十郎

嵐吉三郎

淺尾三八

嵐馬十郎

中山文五郎

淺尾工左衛門

市川蝦十郎

嵐徳三郎

澤村其若

坂東八重菊

澤村富三郎

藤川富松

尾上梅之丞

中山一枝

尾上多見之丞

中山南枝

五月十三日ヨリ

源平柱礎 曆

花上野譽石礎

猿曳門出一諷

淺尾爲十郎

實川延三郎

淺尾友藏

嵐橋五郎

坂東七五郎

中山文七

市川虎藏

三榑松五郎

坂東國五郎

坂東壽太郎

中山南枝

澤村其若

嵐璃久之助

藤川富松

中山一枝

嵐璃光

奈河七五三助

九月一座改

座本 嵐橋之助

未九月十二日ヨリ

けいせい輝艸紙

白木屋お駒 錦 繪 姿

尾花才三郎

十月十三日ヨリ

箱根靈驗 壁 仇 討

勝鬨 葎 源 氏

隅田川 續 俤

右狂言切ニテ一座上京

大切 法界坊 嵐 璃 荘

けい事 要介 市川米十郎

かたみ おくみ 尾上梅之丞

の忍ふ おかん 中村哥路之助

すり 甚三 嵐 吉三郎

相勤申比

尾上梅之丞 嵐 璃 荘

中村富次郎 市川米七郎

中村小三郎 澤村來助

尾上かのふ 中村三八

澤村とみき あらし來太郎

あらし芳三郎 坂東國五郎

中村歌路之助 市川男女藏

實川延三郎

市川榑次郎

あらし團八

市川市太郎

尾上朝藏

中山文五郎

嵐 吉三郎

作 金龜堂



天保七 申歲

申正月九日ヨリ  
けいせい稚兒淵  
三月五日ヨリ  
日吉丸稚櫻  
花洛清水夜開帳  
四月十七日ヨリ  
敵討三國湊  
青樓の夜櫻  
五月十三日ヨリ  
織合團七嶋  
大坂神夏揃

嵐吉三郎  
實川延三郎  
淺尾徳治  
尾上多イ藏  
市川市十郎  
中村翫十郎  
嵐馬十郎  
姉川仲藏  
尾上多見藏  
尾上梅之丞  
中村富次郎  
坂東榮次郎  
姉川源之助  
嵐徳三郎

座本 嵐吉太郎

八月ヨリ一座改メ興行  
姉妹達大礎  
播州皿屋敷  
嫁入信田妻  
道行女 狐  
景事 夫 相勤  
繪本うとふ物語  
釜淵雙級巴  
戀飛脚大和往來  
中村鶴十郎 出勤  
片岡市藏 七役相勤

尾上多見藏  
實川延三郎  
大谷門藏  
嵐橋五郎  
市川男女藏  
坂東七五郎  
片岡市藏  
坂東壽太郎  
此狂言切ニ  
て  
坂東壽太郎  
尾上多見藏  
尾上梅之丞  
嵐橋五郎  
片岡よしの  
あらし徳尾  
尾上民江  
片岡松江  
嵐徳三郎  
作 奈河一洗

天保八 酉歲

酉正月十七日ヨリ  
けいせい七種駒  
四月十七日ヨリ  
大願成就殿下茶屋聚  
五月廿五日ヨリ  
敵討乗合嘶  
切  
戀  
湊  
右狂言嵐璃寛病氣ニ付相休み  
一座諸方へ分ル

尾上多見藏  
嵐吉三郎  
三樹松五郎  
嵐橋五郎  
中山文七  
大谷友右衛門  
中山文五郎  
市川新四郎  
中村友三  
淺尾與六  
嵐璃寛  
嵐璃光  
澤むら富三郎  
尾上梅之丞  
中村哥南女  
あらし璃勇  
嵐壽三郎  
中村歌六  
作 奈河政橋

座本 嵐吉太郎

八月一座改  
九月廿五日ヨリ  
梅浪花早咲源氏  
關取千兩幟  
故人嵐吉三郎十七回忌追善  
嵐吉三郎 相勤  
由良湊千軒長者

嵐吉三郎  
片岡我當  
市川新四郎  
市川森之助  
中山文七  
中山新九郎  
中山文五郎  
中村友三  
市川助十郎  
澤村富三郎  
藤川とみ松  
あらし璃勇  
嵐壽三郎  
嵐璃光  
作 奈河政橋



天保九 戌歳 座本 嵐吉太郎

八月九日ヨリ  
けいせい 矢數譽  
おそめ 新板歌祭文  
△中村友三△中山兵太郎 退座  
九月廿一日ヨリ  
伽羅 先代 菴  
實川延三郎 出勤  
戀切 詣 清水 櫻  
大切 看雙 吾妻 菊  
嵐徳三郎 相勤  
實川延三郎 相勤  
中村歌六

嵐 璃 珪  
中山兵太郎  
中村駒十郎  
中山文七  
市川助十郎  
中村蘭九郎  
中村友三  
淺尾工左衛門  
坂東壽太郎

嵐徳三郎  
中山文枝  
中山一枝  
中山よしを  
中村哥南女  
中村かるも  
中山一とく  
中村歌六

作 奈河政橋

天保十 亥とし 座本 嵐吉太郎

戊十一月十三日ヨリ  
東海道戀關札  
容くらべ出入の湊  
山巡旭の粧  
金時 嵐 璃 珪  
山姥 嵐 徳三郎  
右狂言切ニテ一座改メ

嵐 吉三郎  
嵐 璃 珪  
市川森之助  
中村桃三  
小川鬼雀  
坂東國五郎  
中村友三  
市川助十郎

中村千之助  
あらし徳尾  
片岡あやめ  
嵐 徳三郎

作 奈河政橋  
奈河一洗

天保十亥正月ヨリ一座改

亥正月八日ヨリ  
傾城 忍逢 淵  
平井權八 吉原街  
三月十日ヨリ  
祇園女御 九重錦  
八陣守護 本城  
大切 廓 色 揚  
半兵衛  
四月十五日ヨリ  
敵討 御堂 前  
小野道風 青柳 硯  
璃寛三回忌追善狂言 嵐徳三郎 相勤  
大切 色 讀 販  
お染 久松  
七役 市川森之助 相勤  
五月六日ヨリ  
敵討 御堂 前  
小野道風 青柳 硯  
切差替ル  
夏祭 浪花 鑑

市川市十郎  
市川森之助  
藤川鐘九郎  
市川鯉三郎  
小川鬼雀  
中山文五郎  
市川男女藏  
市川上芙蓉  
市川助六  
姉川中藏  
片岡市藏

坂東のしほ  
中村千之助  
藤川八甫  
嵐 徳三郎

作者 奈河政橋

八月八日ヨリ  
秋葉權現廻船話  
關取千兩轍  
名切 作切 籠 曙  
九月十三日ヨリ  
三石 燈 始  
信州川中嶋合戦  
舞扇 南柯話  
十月六日ヨリ  
有職 鎌倉山  
源平布引瀧  
岸打浪阿波鳴戸

△市川市十郎△市川鯉十郎△市川森之助△尾上芙蓉  
△中村桃三△大谷門藏△姉川仲藏 是切ニテ退座  
出勤役者○三樹源之助○三樹他人○三樹大三郎○中村歌六

八月一座改メ

三樹源之助  
三樹他人  
市川助六  
小川鬼雀  
市川男女藏

尾上芙蓉  
藤川鐘九郎  
中山文五郎  
中山友七  
片岡市藏

嵐 徳三郎  
三樹大三郎  
片岡あやめ  
あらし徳尾  
中村哥南女  
中村歌六

作 奇河政橋



天保十一 子歳

座本 嵐吉太郎

亥十一月十日ヨリ

正月一座改

敵 討 安 永 録

嵐 璃 狂

心 中 宵 庚 申

三樹 他人

攝津國長柄人柱

市川 鯉三郎

大切 あしかれと 希浪花名物

三樹 德五郎

よきに見給へ 希浪花名物

小川 鬼雀

あらし徳三郎

三樹 松五郎

あらし璃狂 相勤

浅尾 鬼十郎

中山よしを

柴崎 臺藏

此狂言ニて一座改

嵐 瑤五郎

浅尾工左衛門

中村 芝藏

三樹源之助

中村 富三郎

中山一とく

嵐 徳三郎

三樹大三郎

中山よしを

作者奈河政橋

作者奈河政橋

四月ヨリ一座改

四月三日ヨリ

競 伊 勢 物 語

義 經 腰 越 状

隅 田 春 妓 女 容 性

○嵐 冠十郎 出勤

八月三日ヨリ

幼 稚 子 敵 討

九月廿一日ヨリ

妹 脊 山 婦 女 庭 訓

和田合戦女舞鶴

伊達娘戀緋鹿子

十一月八日ヨリ

近 江 源 氏 先 陣 館

○中村歌六○姉川仲藏

○尾上梅之丞 出勤

釜 淵 雙 級 巴

大 經 師 昔 曆

嵐 璃 狂

嵐 橋三郎

實川 菊藏

浅尾 浅五郎

坂東 三八

藤川 鐘九郎

片岡 市藏

實川 延三郎

實川 新平

中山 源十郎

市川 男女藏

坂東 壽太郎

嵐 三右衛門

山下 八百三

ふじ川 八甫

あらし 徳尾

嵐 徳三郎

正月五日ヨリ  
新うすゆき物語  
けいせい反魂香  
英執着獅子  
二月廿日ヨリ  
彦山權現誓(助)劔  
雙蝶々曲輪日記  
菜種亂咲道行

中村歌十郎  
三樹他人  
中山源十郎  
藤川鐘九郎  
浅尾浅五郎  
浅尾與六  
市川男女藏  
江戸坂京藏  
浅尾田六  
中村桃三  
中村東藏  
片岡市藏  
嵐三右衛門  
山下八百三  
浅尾あさを  
藤川八甫  
中村富三郎  
嵐徳三郎

四月ヨリ一座改

四月三日ヨリ

競 伊 勢 物 語

義 經 腰 越 状

隅 田 春 妓 女 容 性

○嵐 冠十郎 出勤

八月三日ヨリ

幼 稚 子 敵 討

九月廿一日ヨリ

妹 脊 山 婦 女 庭 訓

和田合戦女舞鶴

伊達娘戀緋鹿子

十一月八日ヨリ

近 江 源 氏 先 陣 館

○中村歌六○姉川仲藏

○尾上梅之丞 出勤

釜 淵 雙 級 巴

大 經 師 昔 曆

嵐 璃 狂

嵐 橋三郎

實川 菊藏

浅尾 浅五郎

坂東 三八

藤川 鐘九郎

片岡 市藏

實川 延三郎

實川 新平

中山 源十郎

市川 男女藏

坂東 壽太郎

嵐 三右衛門

山下 八百三

ふじ川 八甫

あらし 徳尾

嵐 徳三郎



天保十二 巳歳

座本 市川助太郎

巳正月十三日ヨリ  
けいせい黄金鱈  
加賀見山廓寫繪  
壬正月十日ヨリ  
敵討巖流嶋  
此狂言切にて八月迄休み

市川男女藏  
嵐橋三郎  
市川助六  
市川新四郎  
嵐冠十郎  
市川助十郎  
浅尾田六  
江戸坂京藏  
浅尾浅五郎  
中村東藏  
浅尾與六  
嵐徳三郎  
嵐三右衛門  
中村哥南女  
尾上梅之丞  
中村哥次郎  
山下八百三  
中村歌六  
作 奈河政橋

八月五日ヨリ  
假名手本忠臣藏  
菅原傳授手習鑑  
右狂言裏表十一段かへし  
七役 尾上菊五郎  
△藤川花友△嵐徳三郎 退座ス  
九月十日ヨリ  
天竺徳兵衛韓(咄)  
東海道四谷怪談  
尾上松緑廿七廻忌追善  
尾上菊五郎 相勤

尾上松助  
嵐橋二郎  
大谷曾呂平  
尾上梅五郎  
市川男女藏  
三樹他人  
市川友藏  
大谷門藏  
尾上菊五郎  
尾上梅之丞  
中村梅花  
あらし徳尾  
藤川花友  
尾上梅三郎  
嵐徳三郎  
尾上梅幸  
作者 奈河政橋  
竝木五瓶

天保十三 寅歳

座本 市川助太郎

正月十一日ヨリ  
姉妹達大礎  
大切江戶繪姿  
けい事江繪姿  
三月六日ヨリ  
花都矢數譽  
東訛戀深川  
四月十日ヨリ  
有職鎌倉山  
花扇錦繪競  
妹脊鳥達四ッ紋  
五月五日ヨリ  
伽羅先代種  
宿無團七時雨傘  
八月五日ヨリ  
けいせい品評林  
名作切籠曙

九月十七日ヨリ  
濃紅葉小倉色紙  
南詠戀書拔  
一の谷嫩軍記  
油商人廓話  
粧化六歌仙  
右狂言中程ヨリ故障有之芝居相休ム  
此狂言仕處十一日之朝方に御公儀様より御呼出  
之上九月狂言南詠戀書拔濡事之場是有ニ付其事ニ  
て芝翫我童ときは銀主狂言方右の人數御預ケ被成  
其目見物入込故芝居かゝり一統打寄色々相談致  
ししへとも御公儀一向不相濟をれゆへ八ッ時頃  
斷口上書出し芝居相休み其後十二月廿七日先達而  
御預ケニ相成ゆ芝翫并我童ときは錢拾五貫ッ、過  
料ニて先達よりの日残りも有之ゆニ付卯の正月七  
日より去年の一座にて差出して口上看板出すなり  
猶又銀主は十貫文作者は五貫文の過料にて一座無  
事に相済申ゆ

三樹他人  
嵐橋二郎  
市川瀧十郎  
江戸坂京藏  
嵐冠十郎  
浅尾與六  
浅尾田六  
浅尾鬼市  
中村桃三  
浅尾浅五郎  
中村東藏  
三樹源之助  
嵐徳三郎  
あらし橋當  
あらし徳尾  
嵐かのふ  
三樹大三郎  
澤村ときハ  
中山みよし  
作 奈河政橋



天保十四 卯歲

座本 市川助太郎

卯正月十二日ヨリ  
兄と合方 忠孝譽二街  
弟も合方

四月十二日ヨリ  
玉藻前 曦 袂  
我童病氣  
にて出ず

右狂言十二日より打改場數多御座はニ付  
正六ツ時より相始め夕方七ツ時ニ打出し  
申比開賑々敷御來駕之程奉希上比 口上出ス  
中程ときわ病氣ニ付替役片岡蝶太夫中村  
梅花兩人にて相勤し  
又十六日ヨリ會平内の段付ときわ女房おつ  
る役相勤 中程より我童病氣ニ付中村哥之  
助替り役相勤

片岡我童  
三榊他人  
中村壽郎  
嵐 栴藏  
中村蘭九郎  
大谷徳治  
中村東藏  
中村芝翫

五月十二日ヨリ  
吾妻海道 茶屋娘

鎌倉三代記

藍桔梗 鷹金小紋

八月三日ヨリ  
けいせい花船筏

福在原系圖

文月恨切籠

此狂言より  
○嵐 璃 珥  
○淺尾工左衛門 出勤  
○中村芝藏  
△片岡我童 京行にて退座

澤村ときわ  
片岡あやめ  
片岡蝶太夫  
中村梅葉  
坂東壽哥  
中山みよし  
中村駒三郎  
市川助六  
片岡蝶十郎  
市川新十郎  
中村芝藏  
市川助十郎

九月七日ヨリ  
敵討 龜山話

右狂言役割ニ澤村ときわ書有共  
病氣ニ付替役左之通りニ記ス  
女房おゆき 實川勇次郎  
娘おとみ 片岡蝶太夫  
けいせい淺衣  
此狂言にて延三郎病氣本ふくニ  
付出勤口上書市川助十郎より出  
ス

○實川延三郎  
○同 勇次郎 出勤  
△實川延三郎 退座  
○片岡我童 出勤

十月廿二日ヨリ  
柵自來也談

おふき 重 井 筒

碁太平記 白石嘶

義經千本櫻

戀飛脚 大和往來

常悦 中村芝翫  
忠のぶ  
谷五郎 嵐 璃 珥  
あづか

澤村ときわ  
中村千之助  
片岡蝶太夫  
實川勇次郎  
中村梅葉  
中山みよし  
實川延三郎  
中村歌之助  
あらし栴藏  
市川助六  
片岡蝶十郎  
實川新平  
中村芝藏  
市川助十郎

嵐 璃 珥  
三榊他人  
あらし三津橋  
中村壽郎  
中村駒三郎  
大谷徳治  
市川新十郎  
中村東藏  
中村芝翫



天保十五 辰歳

座本 市川助太郎

三月十二日ヨリ  
姫競 雙葉繪艸紙

三月十三日ヨリ  
けいせい 染分手綱

七月十八日ヨリ  
源平 柱礎曆

極彩色 娘扇

吉原 細見圖

五月十日ヨリ  
祇園女御九重(錦)

彦山權現誓(助)劔

伊勢音頭戀寐劔

此切ニテ  
嵐 璃珪 退座

○三榊源之助  
○同 大三郎  
○浅尾奥山  
○あらし與市  
○中村かをよ  
出勤

尾上菊五郎 片岡我童  
市川彌太郎 三榊他人  
中村哥次郎 嵐 三津橋  
中村琴三郎 中村壽市  
中村哥南女 嵐 楯藏  
あらし金子 片岡我藏  
片岡蝶太夫 中村東藏  
片岡あやめ 中村芝翫  
中山みよし  
中村歌六  
嵐 璃珪  
市川宗十郎  
市川新四郎  
大谷徳治  
中村駒三郎  
片岡蝶十郎  
市川助六  
市川新十郎  
中村芝藏  
市川助十郎

弘化二 巳歳

座本 市川助太郎

巳正月十三日ヨリ  
けいせい 妹脊鶴

三月十一日ヨリ  
傾城佐野舟橋

拳揮廓大通

御所櫻堀川夜討

男作五鴈金

七月十三日ヨリ  
長柄長者黄鳥墳

持丸長者金筭

九月九日ヨリ  
けいせい 稚兒淵

大經寺昔曆

大入大評判  
おし鳥 あらし璃珪  
けい事 中村芝翫  
相勤ム  
此狂言切  
嵐 璃珪 退座

けい事あらし璃珪  
大出来大評判ニ付  
芝翫不評故ニ後に  
替りをふ 璃珪に  
おされる

澤村其答 中村芝翫  
三榊大三郎 嵐 三津橋  
尾上徳松 あらし與市  
藤川八藏 市川助五郎  
藤川八太郎 尾上徳三郎  
澤村ふじ松 片岡市九郎  
藤川花友 中村駒三郎  
中村みなと 中村翫太郎  
あらし金子 市川助六  
中村かほよ 中村東藏  
中山一四郎 三榊源之助  
中山みよし 片岡市藏  
嵐 璃珪  
坂東八五郎  
中村仲五郎  
中村壽郎  
嵐 楯藏  
三榊増五郎  
市川新十郎  
片岡市三郎  
中村芝藏  
市川助十郎







弘化四 未 正月吉日ヨリ二ノ替リ

けいせい 桃山錦

此狂言ハけいせい遊山櫻也其外題替リ也狂言の内ハ  
繁々夜話おほこの銀太之場一切入ルカカシ少々差支  
有之ニ付中程よりけいせい青陽鶴大和橋之段太郎助内之段ヲ差加ヘ致ス

三七信高 中村芝翫 古手屋久兵衛 中村壽郎  
曾六二 中村哥之助 刀屋宗助 市川新十郎  
娘おそで 中村千之助 馬方大六 市川助五郎  
庄屋奎作 中村儀左衛門 同耳され三 浅尾奥山  
太郎介 市川助十郎

未二月吉日ヨリ

座本 市川助太郎

前嶋 廻月弓張

此狂言の内ニ馬士東市云世話場  
一切入ル

切舞 扇南柯話 白川越之段  
四月吉日ヨリ  
加賀見山舊錦繪  
おちよ 宵庚申雙腹帶  
半兵衛

片岡我童 中村哥之助  
中村駒三郎 澤村其答  
市川新十郎 中山一とく  
實川延次郎 尾上菊三郎  
片岡我六 中村千之助  
市川助五郎 片岡あやめ  
片岡我久藏 中山みよし  
浅尾奥山 中村東藏  
市川助六 尾上雷十郎  
中村壽郎 大谷徳治  
片岡蝶十郎 中村芝翫  
中村儀左衛門 市川助十郎

澤村其答 中村芝翫  
中山一とく 中村歌之助  
市川助六 澤村ふじ松  
大谷徳治 尾上菊三郎  
尾上雷十郎 片岡あやめ  
中山百藏 中山みよし  
片岡蝶十郎 中村千之助  
中村駒三郎 中村我童  
片岡我童 中村壽郎  
市川助五郎 市川助五郎  
片岡我久藏 尾上徳三郎  
浅尾奥山 尾上雷十郎  
市川新十郎 市川儀左衛門  
市川助十郎 中村東藏

五月吉日ヨリ

國性爺合戦

夏祭浪花鑑 中山みよし 死ス

切へ付ル 戀文章

此狂言ハ文化五年辰とし坂東重太郎始而竹  
田の芝居ニて致ス高津ちんごん坂金子と申  
ス菓子やに心中よふの事あり是を金屋金五  
郎ニ取組作致したり大入大評判也坂東の物  
まねといふと只此せりふをいふやうになり  
市中一統よく人の知る所也其後座摩いなり  
ニても致ス近頃又々若大夫又ハ堀江ニても  
坂壽久々にて致ス評判よく大入なり

七月吉日ヨリ盆替リ  
座本 市川助太郎改ル

市川巳之助ニ成ル

前敵 討安永録  
切須磨都源平躑躅  
小さいな 廓色揚  
半兵衛

此時此邊芝居好き兒鶴の連中  
ヨリ此芝居の小番出る也

十月吉日ヨリ  
東海道戀關札

關取千兩轍  
大切事 千種の亂 咲

中村芝翫 澤村其答 罷出相勤  
中村千之助 中村歌六  
當狂言なればニて芝翫度々病氣發ル  
中村芝翫事病氣之處養生不叶十一月  
廿五日ニ死去右ニ付芝居も半芝居ニ  
て仕仕芝居不入ニて芝翫寐はん像の  
繪出る色々錦繪も數多出るなり十一  
月末に替リ狂言の看板出す

十一月吉日ヨリ

前敵 討浦朝霧  
切猿曳門出諷

片岡我童 中村歌之助  
中村壽郎 市川助六  
中山百藏 片岡我久藏  
尾上雷十郎 市川和十郎  
市川助五郎 浅尾奥山  
中村東藏 中村駒三郎  
大谷徳治 中村芝五郎  
中村儀左衛門 市川助十郎

澤村其答 中山一とく  
片岡あやめ 中村千之助  
尾上菊三郎 片岡愛之助  
中村歌六



嘉永元 申正月吉日ヨリ二の替り狂言

座本 市川巳之助

けいせい石川染 中村芝翫  
大切けい事 子役九歳 中村玉七  
容艶花娘道成寺 罷出相勤申

此狂言の茶屋場にて中村玉七初ふたいの口上ヲ片岡我童狂言に取組アルト見へたり右口上の板行北船場兒鶴捨る也

三月吉日ヨリ  
伽羅先代 中村芝翫 中村玉七  
嵐 璃寛 相勤申  
桂川連理 此狂言ヨリ退座△嵐璃寛

中村芝翫死去後は當芝居宛角不入ニて一芝居持兼座組も色々替りて興行致すれ共不入ニて止ス此節風邪流行致し役者衆中も時々休みニ成殊更はやらず此節はやる物は風邪ゆへに醫者殿と焼いもの辻賣これらの數所々に出し店殖てよく賣る也中にも御靈前の焼いも別段味みあるよし大はやりなり南ニてハ戎ばし詰の店評判よろしく宛角に喰物店ははやり見せもの淨るり芝居は不入なり時節負と見へたり

片岡我童 中村哥之助  
澤村其答 市川高麗藏  
あらし橋蝶 片岡松十郎  
あらし璃紅 市川和十郎  
中村哥芝之介 市川新十郎  
片岡あやめ 大谷徳治  
中村歌六 浅尾奥山  
市川助五郎 中山百藏  
生寫寫右衛門 嵐 璃寛  
中村東藏 中村玉五郎  
片岡我久藏 片岡我六  
笠谷丸國 嵐 橋久十郎  
片岡蝶十郎 中村壽郎  
中村儀左衛門 市川助十郎

座本 市川巳之助

前狂言 御堂前未刻太鼓 此狂言より  
後狂言 花魁荅八總 氏神祭之段 出勤仕  
切狂言 伊勢音頭戀寐劔 伴住家之段 此狂言切

小倉色紙一座

八月吉日ヨリ  
前拳 輝廓大通 病氣ニ付退座  
後木下蔭挾閉合戦 此狂言より出勤  
切播 砦皿屋鋪 〇浅尾與六〇浅尾與作  
申十月吉日ヨリ 〇おきく役 璃瑤大出来大當見事

尾上芙蓉 中村玉七  
中村千之助 實川延三郎  
三樹徳三郎 三樹源之助  
實川勇二郎 中村壽郎  
中山南枝 實川菊藏  
三樹増五郎 實川實五郎  
中山馬太郎 市川馬太郎  
市川森之介 市川松壽  
尾上松壽 三樹藏之介  
市川助五郎 市川助五郎  
あらし大十郎 實川鯨藏  
市川新十郎 市川新十郎  
市川助六 市川助六  
小川鬼雀 市川市友  
中村友三 中村友三  
三樹大五郎 三樹大五郎



敵討 義戀 柵 片岡我童病氣全快仕ニ付罷出相勤申  
出村新兵衛 戀 深川 中村玉七 初舞臺  
三國小女郎 戀 川 片岡我童引合長々口上言  
玉屋新兵衛 戀 川 茶屋場ニて玉七わん久けい事  
わん久 千種 亂 咲 千種亂咲相勤  
けい事 千種 亂 咲 千種亂咲相勤  
十一月吉日ヨリ

濃紅葉小倉色紙  
油商人廓話  
勝鬨芋源氏

片岡我童 中村歌之介  
片岡蝶十郎 市川助五郎  
市川高麗藏 市川高麗藏  
市川和十郎 市川和十郎  
市川新十郎 市川新十郎  
大谷徳治 大谷徳治  
中村儀左衛門 中村儀左衛門  
市川助十郎 市川助十郎



嘉永二 酉正月吉日ヨリ

けいせい 英草紙

酉九月吉日ヨリ

座本 市川巳之助

故片岡仁左衛門十三回忌追善  
假名手本忠臣藏

由良之助 片岡我童 相勤  
大當り大入

片岡我童  
三榊源之助  
中村玉七  
澤村其答  
三榊他人  
片岡我當  
中村哥芝之介  
大谷馬十  
片岡あやめ  
市川森太郎  
市川友三  
中村大吉

片岡松十郎  
中村芝五郎  
中山百藏  
三榊増五郎  
片岡我久藏  
片岡蝶十郎  
嵐冠十郎  
中山文七  
三榊大五郎

嘉永三 戌正月吉日ヨリ

座本 片岡政次郎

前狂言 けいせい 花發船

切狂言 玉藻 前 曦 袂

前狂言 けいせい 廓源氏

和田合戦女舞鶴

けい事 是ハ是ハと斗花吉野山  
あらし璃珪 相勤

退座△市川助十郎  
出勤○淺尾與六

中村大吉 嵐市紅  
片岡あやめ 市川市紅  
中村ときわ 中村鶴介  
あらし璃登 中村歌十郎  
あらし璃紅 嵐芳三郎  
片岡愛之介 嵐橋藏  
あらし橘蝶 嵐壽藏  
中村琴三郎 嵐珪五郎  
中村歌六 嵐璃久藏  
中村歌六 嵐我童

あらし和三郎  
大谷馬十  
市川助六  
市川新十郎  
片岡松十郎  
笠谷丸二郎  
あらし橘二郎  
中山百藏  
中山美男  
片岡我久藏  
片岡蝶十郎  
中村壽郎  
中村玉七  
生島寛右衛門  
嵐冠十郎  
市川助十郎



嘉永四 亥正月吉日ヨリ

けいせいといんく拍子  
三 榊 太 夫

三月吉日ヨリ  
敵 討 譽 高 丸  
明 烏 夢 泡 雪

中山文七 嵐 三津之助  
姉川新四郎 中村千之助  
澤村其答 嵐 三津五郎  
市川當升 中山一徳  
×座也 生島寛右衛門  
中山徳三郎 中山美男  
嵐三津右衛門 市川森助  
片岡柳藏 市川森之助  
中村哥保世 市川米藏

八月吉日ヨリ一座

座本 片岡政次郎

前狂言 けいせい挾妻櫛

後狂言 福在原系圖

切狂言 褻重恨鮫鞘

亥十月吉日ヨリ  
前狂言 頼政鶴物語

後狂言 勢州阿漕浦

切狂言 往古鯨怪談

片岡我童 嵐 璃 珪

中山文七 嵐 芳三郎

澤村其答 嵐 栢藏

中村ときわ 嵐 璃 珪

市川助十郎 嵐 珪 五郎

尾上松之丞 嵐 璃 升

尾上當朝 市川瀧十郎

嵐 三右衛門 市川市友

此狂言より出勤 市川助五郎

○片岡市藏 中村芝五郎

○片岡市九郎 中山百藏

○同當之助 大谷馬十

○同松十郎 淺尾爲右衛門

○藤川八藏 片岡蝶十郎

○同八太郎 姉川新四郎

○淺尾勇枝 市川助十郎

○坂東秀朝 市川助十郎

○中村壽郎

嘉永五 子正月吉日ヨリ

座本 片岡政治郎

けいせい入相櫻

深山廻白髪公時

切差替ル  
戀飛脚大和往來

澤むら其答 中村哥十郎  
中村かをよ 片岡松十郎  
藤川八太郎 片岡當之助  
藤川八藏 淺尾爲右衛門  
片岡愛之助 片岡蝶十郎  
中村歌次郎 淺尾爲十郎  
姉川みなと 姉川新四郎  
嵐 三右衛門 片岡市藏

片岡我童

中山文七

坂東秀朝

大谷馬十

片岡市九郎

片岡榊藏

中山百藏

中村瀧十郎

嵐 璃 雀

あらし玉橋

藤川鏡九郎

中村哥十郎

片岡松十郎

片岡當之助

淺尾爲右衛門

片岡蝶十郎

淺尾爲十郎

姉川新四郎

片岡市藏

子八月吉日ヨリ

座本 片岡政治郎

當四月類焼後芝居早々普請ニ取懸リ

よふく此頃出来急ニ新芝居興行看

板差出ス何分殘暑きひしく八月上旬

に看板出ス芝居ニ付式三番叟仕仕

前 遠 江 瀉 戀 賊

後 茜 染 野 中 隱 井 戸

切 初 櫓 豊 歳 三 番 叟

翁 三 榊 稻 丸 千 歳 中 村 梅 花 中 村 珪 相

澤村其簡 嵐 義三郎  
中村梅花 市川新十郎  
中村みなと 中村壽郎  
中村哥保世 中村桂車  
嵐 璃 當 生島寛右衛門  
市川勝三郎 嵐 冠十郎  
藤川友吉 市川助十郎

嵐 璃 珪

中山文七

三 榊 稻 丸

嵐 芳三郎

市川助五郎

嵐 栢藏

嵐 珪 五郎

中村芝五郎

中村驚助

姉川新四郎

中村玉七

嵐 璃 升

嵐 雀

嵐 義三郎

市川新十郎

中村壽郎

中村桂車

生島寛右衛門

嵐 冠十郎

市川助十郎







### 『大歌舞妓外題年鑑』の校訂校正について

斑山高野辰之博士の藏本『大歌舞妓外題年鑑』が、浪速劇壇の記録として、現存のうち最も完全なものであることは、本冊に収めました同書の解題に於て、本叢書刊行會相談役石割松太郎氏が詳かに書かれてゐます。この『大歌舞妓外題年鑑』の校訂校正については、石割氏が主として其の任に當られる豫定でしたが、突然の大患に臥床のため、その校訂校正の總てを自分がせねばならぬこととなりました。

×

自分の父は淨瑠璃好きで、『廿四孝』の『十種香』を十八番に語つてゐました。母はまた芝居好きで、その娘時代は故齋入——先代市川右團治——が出る道頓堀の芝居は、めつたに見落したことがないと、今もそれを一つの誇りにしてゐます。かうした父母を持つた自分は、淨瑠璃にも、芝居にも、聞きわける耳、見わける眼を、幸ひに持ち合せてゐます。従つて、『演藝』の二字には、終生、少なからぬ憧憬を持續することせう。

されば、この『大歌舞妓外題年鑑』を、活字に廻す以前、自分はみづからこれを謄寫し、原稿一頁を、組み上げても一頁になるようにと、いささか苦心を致しました。解題の中に石割氏が記述の通り、この『大歌舞妓外題年鑑』は傳寫本ですから、讀みにくい文字に、をりをり逢着したばかりか、原本一丁の中に収められた行數、文字



数は、随分に不同です。それを行数なり、字詰なりを一定せねばならぬ活字に組上げ、ともかくも原本の面影を成るべく失はぬようにと心がけ、やつとこれまで仕上げて自己満足はしてゐますものの、活字は、毛筆で書くとは違つて、ここらで一行多くとか、この邊でもう一字詰めてといふ自由がききません。そのため役者の名なども五號活字と六號活字とに區別することの出来なかつたは残念でした。

x

むかしは『傾城』の二字を、芝居の外題に用ひる場合、その興行の季節により『契情』と書いたり、『傾城』と書いたり、また假名四字に『けいせい』と書いたりしたものださうです。實際、芝居國の文字の使ひ方は、一種異様で多くの場合、外題は七字か五字、もしくは三字との約束であるため、文字を短縮するに際し、『夫』と『婦』との二字を一字にちぢめ、『婦』偏に『夫』を旁とした『婦』を『メヲト』とか『イモセ』とか訓ませ、『兒手柏』と書くべきところを、『兒手』を一字に縮め、『尅』と書いて『コノテ』と訓ませたりしてゐます。

訓ませ方から申せば、是等は、むつかしい方ではありませんが、安永九年角座七月興行の『南詠戀抄書』の最初の二字を、『トコロバン・イカイ』と訓ませたり、文政十年同じ角座の七月興行の『お元中村筭』といふ外題の、『中村筭』の三字を、『ヒヨクカンザシ』と訓ませたりしてゐるのは、一寸、振假名なしには讀めません。また『垣衣』の二字を、『シノブグサ』と訓ませ、『舊』の一字を『コキヤウ』と訓ませて『故郷』の意味に通はせたり、『柵』の一

字を『ヤヘムスビ』と訓ませ、『如虎』の二字を『ねこ』と訓ませて『猫』に通はせてゐるなど、申さば一種の謎とも見なされます。自分はこの『大歌舞妓外題年鑑』の外題の訓み方を知つてゐて、間違ひなしに、總てに振假名をつけたら、研究者に如何に便利であらうかと、思ひつつ謄寫しました。原本には、一つも訓み方はないと申すまでもありません。

x

また原本に、同じ外題で、一方に『八陣守護城』とあつて、他方に『八陣守護本城』とあり、『一谷嫩軍記』が、時に『一の谷嫩軍記』、『一ノ谷嫩軍記』と書かれ、『姫小松子日の遊』が、『姫小松子の日遊』、『姫小松子日遊』、『姫小松子の日遊』と書かれたり、『本朝廿四孝』が、『本朝二十四孝』と書かれたりしてゐる類ひは、凡て原本のままにして置きました。それに、役者の姓名ですが、『嵐』を時に『あらし』と書き、『中村』を時に『中むら』と書き、『藤川』を『ふじ川』と書き、『桐の谷』を『桐ノ谷』、『桐野谷』などと書いてゐますが、これらも皆原本の通りに従ひました。その他、『歌』と『哥』、『郎』と『良』、『治』と『次』、『助』と『介』、『儀』と『義』、いづれも相錯綜して用ひられてゐますが、それも總て原本の通りにして置きました。されば同じペエジのうちに『歌右衛門』と『哥右衛門』、『橘三郎』と『橘三良』、『圓治良』と『圓次郎』、『雛助』と『雛介』、『儀左衛門』と『義左衛門』などの類があつても、これは同一人であることは言ふまでもございせん。これを統一しておけば、讀者諸氏に御便利であらうとは考へま



したもの、それは今、自分の力では、及びもつかぬこととして、一切原本通りに致しておきました。唯、外題のうちに、傳寫のうちの誤謬と心づいたものは、その文字の横に、別に括弧をつけ、小さい活字で正しいと思ふ文字を記し、疑問の『カ』をつけておきましたことと、も一つ、外題の中にハッキリと文字の脱漏のわかつてゐるものを補ふた場合は、その文字に( )をつけて區別をしてございます。

×

この校訂と校正については、自分は深い興味を持つて、能ふだけ注意したつもりです。まかし發行豫定の期日が切迫して、その校訂校正に多くの時日を取ることが出来なかつたことは、自分としても遺憾の至りです。この文字はと、小首を傾けながら、その疑點を調査して、自己満足をするだけの餘裕すら充分にございませんでした。定めて注意の行届かなかつた所が、多々ございませう。それが心がかりです。(船越政一郎記)

昭和二年十二月廿六日印刷  
昭和二年十二月廿九日發行

(非賣品)

編纂校訂者 船越政一郎  
大阪市西成區松原通二丁目四三

發行者 江崎政忠  
大阪市北區宗是町一番地大阪ビルヂング内  
浪速叢書刊行會代表理事

印刷者 長谷川泰三  
大阪市東成區鶴橋天王寺町五七八五

印刷所 桃谷印刷株式會社  
大阪市東成區鶴橋天王寺町五七八五  
電話 南三三〇六二番  
七二二二番

發行所 浪速叢書刊行會  
大阪市北區宗是町一番地大阪ビルヂング内

電話 土佐堀六六二二番  
振替口座大阪七七三六三番

浪速叢書  
不許  
複製  
第五十



- 一 本叢書は、元和以降この浪速——我等が愛するこの大坂——に關する編著記録のうちから、過去の浪速文化を回顧せしめ、未來の浪速文化を生ましむべき、眞に永遠の價値あるもの——中には未刊行のものが大部分を占めてゐます——を收め、後の世に傳へたい希望の下に着手されたものです。
- 一 本叢書の題字は、帝室御物聖德太子御筆「法華經義疏」の寫眞のうちから求め出したものです。我國に於ける文化工藝の祖におはすばかりか荒陵山四天王寺の創建者として我が浪速との因縁が頗る深い太子の御筆蹟を、我が叢書の題字とすることを得たのは、本書の誇りと考へてゐます。
- 一 本叢書は原本の挿畫を一枚も省略せず、力めて原本の面影を傳へたいと心がけてゐます。
- 一 本叢書の内紙は王子製紙株式會社の別漉紙で、成るべく讀者諸氏の眼の疲勞を軽減したい用意が籠つてゐます。
- 一 本叢書の組版印刷製本これらの技術は桃谷印刷株式會社が其の一切を擔任し、及ぶ限りの努力を惜しまないとの意氣です。
- 一 本叢書見返しのは、日本畫壇の異彩菅楯彦氏の筆。表紙の布は、我國織物界の偉材龍村平藏氏の意匠に成つたもので、現に我が讀書界に好評噴々たるものがございます。
- 一 本叢書刊行會の理事は伊藤秀雄、林安繁、堀越壽助、室谷鐵腸、小林利昌、江崎政忠、木間瀬策三、森下博、末吉一郎の諸氏。顧問は今井貫一、和田萬吉、幸田成友、内藤虎次郎、内田貢、黒板勝美、藤井乙男、新村出、關一の諸氏、相談役は石割松太郎、橋本耕之介、南木芳太郎、上松寅三、佐古慶三、三宅吉之助の諸氏です。(諸氏の姓名はいづれもいろは順に依る)



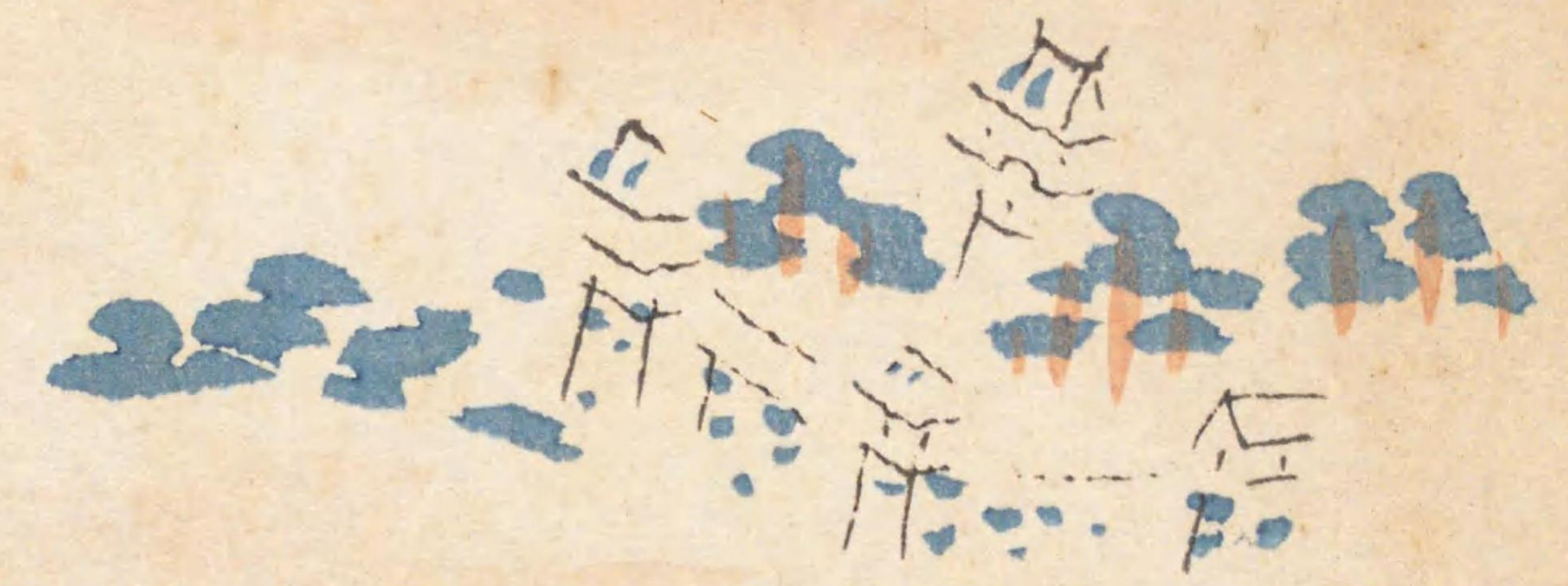
浪速叢書

(全拾六卷)

所收目錄

第一	攝陽奇觀	第九	大阪商業史資料
第二	攝陽奇觀	第十	大阪訪碑錄
第三	攝陽奇觀	第十一	大阪訪碑錄
第四	攝陽奇觀	第十二	地誌
第五	攝陽奇觀	第十三	地誌
第六	攝陽奇觀	第十四	風俗
第七	攝津名所圖會大成	第十五	演藝
第八	攝津名所圖會大成	第十六	索引





繪



